

# 種まき 通信No.86

いつも市民派 ずっと無党派  
**小林じゅん子 議会だより**  
事務所 〒399-8301長野県安曇野市穂高有明9972-1  
Tel. 0263-83-4387 (090-4546-3496) Fax. 0263-83-4938  
<http://junko.voicejapan.net/> メールはjunko@childnet.ne.jp



発行日：2023年2月17日  
発行者：小林純子

## ◆安曇野市議会12月定例会 小林じゅん子の一般質問◆ ～公から真っ当な雇用を 会計年度任用の問題点を直視せよ～

公務員は多すぎる、定数を削減すべきという社会の風潮を背景に、財政安定に向けて人件費を削るために正規職員を減らし、かわりに非正規職員を採用。2009年には男女別のデータで非正規職員は男性73人・女性559人、合計632人に増加。事務職員や保育士、教員、カウンセラーや相談員、図書館司書などが非正規に置き換わってきたが、増えた非正規職員のほとんどが女性なのです。職員の人件費を削減し、行政コストを抑えようという発想はもうやめるべき。それは、男女差別やジェンダーギャップによる雇用の格差や賃金の格差を前提にした、非人間的な考え方だからです。

【小林質問】 平成17年合併当時、本市の正規職員860人に対し非正規職員は545人であったが、現在は正規職員735人に減り、非正規職員703人に増加。その9割近く623人が女性。本市職員の男女の給与差は、非正規職員も含む全職員では女性60・6%と低いですが、これは女性に給与の低い非正規職員が多いためである。非正規職員の「真っ当な雇用」について市長の見解は。

【太田市長】 雇用に際し職種や必要な資格、報酬予定額を明示しているので、これら要件を承知で応募し、非正規採用と理解して勤務しているはず。処遇改善としては、令和6年度より非正規職員に勤勉手当の支給を予定。令和2年度の平均年収額約225万円が、約273万円となる試算。

【小林質問】 人件費を抑えるために正規職員を減らし非正規職員に置き換えてきたことで、住民サービスの低下を招いているような状況はないか。

【総務部長】 正規・非正規の職員の置き換えや住民サービスの低下はない。

【総務部長の反問】 小林議員の質問は大変抽象的で、答弁のしようがない。具体的な事例を基に、住民サービスの低下を招いている業務等があればご教示を。

【反問に対する小林の答弁】 反問に対し、正規・非正規の職員の置き換えや住民サービスの低下はあると反論。教育部所管と福祉部所管の仕事において、住民サービスの低下を招いている事例を具体的に説明。また、それらは非正規雇用職員個々の資質の問題ではなく、非正規雇用の構造的な問題なので、様々な支障が

## 安曇野のくらし まちづくり なんでも相談

個人的なことは、  
政治的なことなのだ！

身近な「お困りごと」や「何とかしたいこと」など、おきかせください。個別対応でお話お聴きします。メール、電話でご予約ください。

3月23日(土)18時～21時

3月24日(日)13時～17時

※上記以外でも随時受け付けています。

場所

薪ストーブの店・地平線倶楽部2階

予約の電話は090-4546-3496

メールはjunko@childnet.ne.jp

(小林じゅん子)

出ているもおかしくない。(反問終了)

【小林質問】 市政の半分を支える職員が不安定雇用でいいのか。民間では労基法の改正により雇用の改善が進む。非正規公務員にも更なる処遇改善を。

【総務部長】 これまで休暇や健康検診等の福利厚生や収入面において、できる限り処遇改善に努めてきた。令和6年度からの勤勉手当の支給に向けて条例改正等の準備を進める。

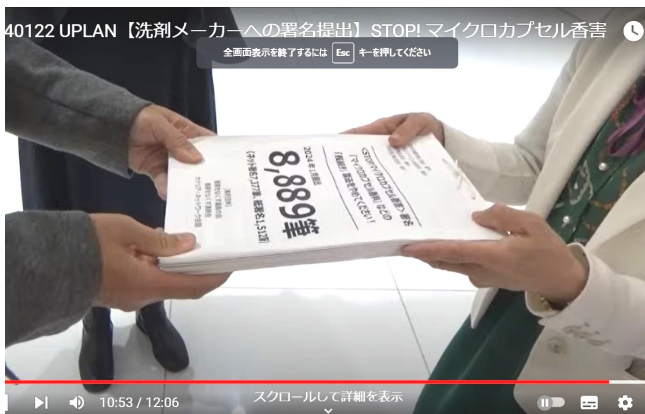
## STOP! 「マイクロカプセル香害」

### 8,889筆の署名 花王、ライオン、P&Gに提出

昨年10月から「STOP! マイクロカプセル香害」と銘打って、芳香や消臭といった機能を長続きさせる製法をやめるよう求めるオンラインの署名活動とキャンペーンを展開して

きました。

集まった署名8,889筆を1月22日に業界団体である日本石鹸洗剤工業会と国内大手2メーカー（花王、ライオン）に届け、3者に署名を手渡しました。



▲手元しか撮影を許されませんでした(花王本社受付にて)

この日、小林じゅん子も上京し署名簿提出に立ち合いました。

25日のP&Gジャパンは、関西の議員中心に複数で訪問しましたが、招待状がないと受け取れないという1点張りて受け取ってもらえませんでした。そこで配達証明付きで社長宛に郵送すること

## P&Gジャパンだけ受け取り拒否!

にしました。受け取った3カ所は社内には共有するとのことでしたので、引き続き要望に対する姿勢を確認していく予定です。

今回の署名の狙いは、提出先を政府ではなくメーカーにしたこと、要望項目を1つに絞ったことです。香害をなくす連絡会は、2017年の活動開始以来、政府に対して香害問題解決に向けた提言をいくつもしてきました。5省庁連名による香りの自粛を求める啓発ポスターの作成など一定の成果は上がりましたが、政府ははまだ製品の安全性の調査や販売規制に及び腰です。

そこで健康被害を生む製品を作りながら野放しにしているメーカーにこそ、被害の実態を伝え対応を求めようと取り組んだものです。

# 種まき通信No.86

「種まき通信」の郵送を希望される方は電話・メール等でお申し込み下さい。  
◆「種まき通信」は年4回発行しています。そのうちの1回は新聞折込にてお届けしています。毎号の郵送をご希望の方はお申し出ください。

## 議決に注目!!

### 賛否が微妙だった議案 陳情書や意見書の採択にあたって

#### ◆「再審法(刑事訴訟法の再審規定)」の改正を求める意見書の提出について

【賛成】誤った捜査、裁判によって自由を奪われ、仕事や家庭を失い、築き上げた人生全てを奪われる冤罪事件は後を絶たない。速やかに救済されなければならない。冤罪被害者の迅速な救済を可能とすることが必要であり、証拠開示の制度化、検察官による不服申立ての禁止、手続規定の整備を求める陳情は、当然のことと考え賛成。国、関係機関に意見書を提出すべき。

【反対】現時点で刑事訴訟法を含め刑事法に関する専門的知見を持ち合わせない当議会において、この問題について一定の方向性を持った意見を取りまとめることは拙速。さらに、この件に対して安曇野市議会は判断能力がないので、安易無責任なる賛成はしかねる。(この陳情を審査した総務環境委員会や委員の私としては、「安易・無責任な判断」との発言に対しては強く抗議しました。)

※賛成11：反対7で意見書は採択。

#### ◆議員平等の原則に基づく安曇野市議会の運営と議会内人事の平等を求める陳情書

【賛成】本陳情が求めている先例の見直しは必然。何が平等か、どのようにすれば全ての議員が納得のいく委員会人事の落としどころを見つけられるのか、議会改革推進委員会としてゼロベースから委員会人事の在り方を知恵を絞って考えていくことを約束する。(議会改革推進委員長 増田議員の賛成討論)

【賛成討論なのに反対の意見も】議員平等の原則を認めながら、議員個々の平等よりも会派の優位性(注1)を説く議員も数名いたので、小林じゅん子はその主張の矛盾を突き、議会内人事の平等を求める陳情書に賛成する討論を行った。

※矛盾を秘めた賛成討論が幾つかあるなか、意外にも全員賛成で採択。

(注1) 会派の優位性＝会派に属する議員は役職を優先的に配分される一方、無所属議員には役職の配分に制限がある安曇野市議会の現状。



## この数字は? 36万円→40万6,000円に!?

### 議員報酬引き上げが適当～特別職報酬等審議会の意見～

市の特別職である議員の報酬や政務活動費、市長、副市長、教育長の給料の額について審議するために、「安曇野市特別職報酬等審議会」が置かれています。太田市長になって2年になろうとする昨年8月、久方ぶりに市長からこの特別職報酬等審議会に対し、特別職の報酬等について諮問がなされました。

12月議会を控えた11月29日に審議会からの答申があり、「議員報酬、市長・副市長・教育長の給料について、それぞれ引き上げることが適当」「議員の政務活動費は現行どおりに据え置くことが適当」という内容が議会にも報告されました。

#### 【答申された議会議員の議員報酬の額】

- ・議長 現行の報酬月額45万9,000円 →49万6,000円に
- ・副議長 現行の報酬月額38万3,000円 →43万5,000円に
- ・議員 現行の報酬月額36万円 →40万6,000円に

**私**が旧穂高町の議員に当選したのは2003年のこと。当時49歳で最年少議員でした。

定数18人のうち60歳以上の議員が8割を占めていました。議員報酬は月額24万5,000円、政務調査費(現在は政務活動費と名を変えている)は月額5,000円。その頃は、当選することがゴール・議員になることが目的の人が多かった。当選して何をしたいのか具体的に語る議員は少なく、首長にお墨付きを与えるために存在するような議員がⅳをさかせていました。

**議会**には慣例・先例といった内輪のルールがあり、それも議員が自らの手を縛るようなものが多く、それがずっと続いてきたのも「名誉職議員」が多かったからだと思い至りました。「名誉職議員よりも、志高い市民を議会に送ることが必要」と痛感しました。

**身**近な自治体の政治には多様な多くの市民が参加できるよう、議員の兼職禁止規定を無くし、実質的に兼職できるように夜間や休日議会ができるようにする。穂高町だったら定数50人ぐらいにして、報酬月額10万円で働いてもらう。そうすれば、予算も増やさずにできる。報酬よりもやりがいを感じて議員になりたいという有能な人が出てきて、結果として既得権にすがる議員はやめていく・立候補しなくなる・・・そんなことを考えていました。

**た**だ、こういう話をしても聞く耳を持つ議員はなかなかおらず、そういっ

た制度を作るための勉強をする余裕もなく、ここまで来てしまったというのが正直なところです。

**安**曇野市に合併して初めての市議会議員選挙のときには、「市議になったとしても、私は町議と同程度の報酬でよいので、政務調査費の方を月額10万円にしてもらえないかと思います。そうなれば、年4回発行する「種まき通信」を、全市に新聞折込で入れるなど、より身近に議会の情報を提供することができます。市民の声を聴く広聴機能を充実させることもできます。月額5,000円の政務調査費では、参考資料を2～3冊買えば終わってしまい、充分とはいえません」と発言していました。どの議員にも一律に高額な報酬を支払うのではなく、基本の報酬は低くおさえ、議員としての働きに応じて支給される政務調査費の限度額の方を増やすのがよい」とホームページにも書いていました。

**合**併後18年にして初めて議員報酬の引き上げが審議会から答申され、月額46,000円ものアップに戸惑いました。個人的には、議員としての働きが評価されたように感じ嬉しかったですが、「いやいや個人の問題ではなく、安曇野市議会が議会として十分に機能し、市民の信頼を得られるものとなっているか」という評価を抜きに、議員報酬を論ずることはできません。

**そ**うすると、前段で述べたような議員個々の働きぶりに応じて、使っただけ交付される(使わなければ返還する)政務活動費の増額が妥当と考えます。議員報酬を引き上げるより、現在月額1万円の政務活動費を5万円にすることを検討した方がよいのではないのでしょうか。

市議会議員の報酬引き上げの議決は3月19日です。それまでに、市民の皆さんからの率直なご意見をいただきたいです。